

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【内容中】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	デジタル教材の活用や、既習内容の復習を行うことで、基本的な知識・技能の定着を図る。学期ごとに1回以上の課題配信を行い、中学校での既習単元や小学校での学習内容を配信することで、学習した内容を振り返る機会を設ける。本校の研究テーマである「さいたま市小・中一貫教育の推進」を通じて、学びの連続性を活かす指導を充実させていく。
思考・判断・表現	各教科の実態に応じて、ルーブリック等の手段を使い、評価規準を明確に生徒に示し、生徒自身が活動の中で目標を意識できるような工夫をする。また、生徒の取り組みやすい手段で毎時間、授業内容を振り返り、自分の考えたことを表現することで、思考力・判断力・表現力を高めていく。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能は高い水準で習得できている生徒が多い中、学習への取組み方には課題を感じている生徒も一定数みられる。 <指導上の課題> 反復練習や個人的な振り返りを時間を十分に確保できていない。	⇒ ドリルパークやスタディサプリ等のデジタル教材を活用し、基本的な知識・技能の定着を図る。【学期ごとに1回実施】 中学校での既習単元や小学校での学習内容を配信することで、学習した内容を振り返る機会を設ける。【学期ごとに1回実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 自らの考えを文章で表す能力に偏りがみられ、特に記述問題においては無回答になってしまう生徒が多い。 <指導上の課題> 生徒の成果に至る過程をデジタル教材などに記録し評価する機会を十分に確保できていない。	⇒ 振り返りシートやスクールダッシュボード等で授業内容を振り返る際にルーブリック等の手段を使い、評価規準を明確に生徒に示し、生徒自身が活動の中で目標を意識できるような工夫をする。自分の考えたことを表現する機会を設定することで、思考力・判断力・表現力を高めていく。【単元ごとに1回実施】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	振り返りシートやスクールダッシュボード等で振り返りを行ったほか、ドリルパークやスタディサプリをはじめとしたデジタル教材等を積極的に活用することで、学習状況調査において知識・技能の観点の正答率が平均値を上回るなど、基本的な知識・技能の定着がみられた。スクールダッシュボードなど生徒が自らの学びを振り返る時間を設定することは、各教科の特性において難しい場面もあったが、口頭やプリントなどでの実施を通して、学んだことを自らの言葉でまとめる力を育成することができた。生徒の習得状況に応じての学習計画や支援においては、テスト計画表の実施など、全体での働きかけを通じ、先を見通した学習をすることができている。今後は、個別最適な学びの実現を目指し、さらに個々へのさらさかけを中心に行う時間を設定する必要がある。
思考・判断・表現	B	振り返りシートやスクールダッシュボード等で振り返りを行ったほか、生徒同士の教え合いや、課題についてグループでの話し合い、クラスやグループでの発表等、協働的な活動の時間を設定した。生徒が主体的に発表活動等を行い、それを相互評価することで、協働的かつ主体的・対話的で深い学びによる思考力・判断力・表現力の向上がみられた。反面、学習状況調査においては正答率が平均値を下回る傾向が見られ、授業で伸ばした力をテストでどのように発揮するかという部分に課題が見られた。また、本年度は、生徒の成果に至る過程をデジタル教材などに記録し評価する機会を十分に確保したとは言えず、その結果、自らの考えを文章で表す能力が伸びず、記述問題においては無回答になってしまう生徒の多さにつながっているのではないかと分析できる。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語・数学ともにすべての項目において正答率が全国・県平均を上回る結果となった。また、理科においては全国平均を上回る問題は8割程度となった。理科で平均を1.7ポイント下回ったのは、4種の生物のうち、呼吸を行う生物を選ぶ問題であった。正答率は4つすべてであったが、正しくすべての項目を選ぶことができた生徒は3割に満たなかった。また、生活調査では「数学/理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問事項で肯定的意見を回答した生徒が全国・県平均を下回っている。このことから、学んだ知識を実際の事象と結びつけて考えることが難しい、または、その方法がわからない生徒が多いのではと考える。	
思考・判断・表現	国語・数学・理科すべての教科において、9割程度の問題で、正答率が全国・県平均を上回る結果となった。平均を下回った問題はそれぞれ、国語では「自分の考えとどのように考えた理由を書く」、数学では「方法を説明する」、理科では「適切なものを判断し、選択する」問題であった。また、正答率が低い問題に対しては、無解答率が高くなる傾向が見られた。国語においては、全国・県平均ともに、知識・技能を思考・判断・表現の平均点が上回っていたが、本校では、逆の結果となった。このことから、得た知識を分析し、自分の言葉で表現することに対する苦手意識があるのではないかと考える。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	知識・技能の観点の問題では、正答率が概ね市平均を上回っていた。1年は国語、数学、社会で2年では数学、社会、理科で市の平均を大きく上回っていた。どの教科でも本校テストでは、概ねできていた内容でも正答率が低いものがあった。系統性でつながりのある内容について、既習を確認したり、繰り返し学習させたりして、さらなる定着を図っていく。また、知識の概念的な理解を大切に、生徒が知識・技能を獲得していけるよう授業改善に努めていく。忙しい中学校生活の中で学習状況を改善するためにもICT機器を活用した効果的な学習で、計画的な基礎学力の定着を図る授業改善の必要性がある。	
思考・判断・表現	思考・判断・表現の観点の問題では、1年は数学、社会で、2年では社会、理科で市の平均を上回っていた。短答式の問題で、無解答率の割合が低くなったことは、自分の考えをもたせ、学習の足跡を残す指導を積み重ねた成果であると考える。一方で記述問題の無解答も一定数いるため、教科ごとに振り返りシートを活用するなど、今後も考え方を言葉で説明する活動に重きを置いていく。教科横断的に、複数の情報の中から必要な情報を見つける活動や、異なる考え方もあった人と協議して解決策を見出す活動に取り組み、思考力・判断力・表現力を高めていきたい。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	1学期においては、ドリルパークやスタディサプリ等のデジタル教材による基本的な知識・技能の定着を目指す時間を、概ねどの教科も設定することができた。また既習内容の振り返りにおいては、授業内で時間の設定をすることは難しく、夏休み課題などにおいて実施している教科のみみられた。小学校の学習内容については、教科や個人によって偏りがみられた。	引き続きデジタル教材等を用いた自学自習の時間を確保するなどして、学習機会の設定をする。基本的な知識・技能の定着を目指す。【学期ごとに1回実施】 各教科の特性にあわせ、振り返りの機会を設けるとともに、教科横断的な視点から既習事項の振り返りをする場面の設定を目指す。【学期ごとに1回実施】
思考・判断・表現	B	振り返りシートなどを活用している教科もみられたが、時間の確保が難しい教科もあるため、単元ごとの実施は難しかった。1学期においては、スクールダッシュボードを活用し、全校で1学期の授業の振り返りを実施した。	引き続き振り返りシートやスクールダッシュボード等で振り返りを行う。実施が難しかった教科を中心に、教科会等を通して実施時期の検討をする。自己評価が実施可能な視点から既習事項の振り返りをする場面の設定を目指す。【単元ごとに1回実施】

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)